

船舶事故調査報告書

平成31年2月6日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 佐藤 雄二（部会長）
 委員 田村 兼吉
 委員 岡本 満喜子

事故種類	転覆
発生日時	平成30年3月17日 16時33分ごろ
発生場所	長崎県五島市岐宿港北西方沖 <small>たてこしま</small> 立小島灯台から真方位066° 1海里（M）付近 （概位 北緯32° 46.1′ 東経128° 45.7′）
事故の概要	漁船まし丸は、帰港中、転覆した。 まし丸は、甲板員が溺死し、右舷外板の破損等を生じた。
事故調査の経過	平成30年3月19日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 <small>船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等</small>	漁船 まし丸、0.5トン NS3-68988（漁船登録番号）、個人所有 5.19m（Lr）×1.47m×0.62m、FRP ガソリン機関、漁船法馬力数30、昭和60年12月1日
乗組員等に関する情報	船長 男性 80歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和51年6月25日 免許証交付日 平成26年9月8日 （平成32年1月5日まで有効） 甲板員 男性 77歳 操縦免許 なし
死傷者等	死亡 1人（甲板員）
損傷	右舷外板に破損、船首部に擦過傷
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北東、平均風速 約7m/s、視界 良好 海象：波高 約2.0m、潮汐 上げ潮の初期、水温 約17℃ 五島市には、3月14日22時06分に強風注意報が、15日15時52分に波浪注意報が発表され、いずれも17日15時46分に解除された。 沿岸波浪図によれば、玄界灘における波浪の状況は、次のとおりであった。 17日09時00分 波向 北北東、波高 2.8m、周期 10

	秒、風向 東北東、風速 19ノット
事故の経過	<p>本船は、船長及び甲板員1人が乗り組み、刺し網漁の目的で、平成30年3月17日16時00分ごろ、岐宿港北西方沖の漁場に向けて同港を出港した。</p> <p>本船は、船長が、漁場に到着して投網を行おうとしたが、波が高かったので、操業を取りやめて帰港することとした。</p> <p>本船は、船長が船尾部で船外機を操作し、甲板員が船首部にいて、南東進中、16時33分ごろ左舷正横から波高約2mの波を受け、左舷側が持ち上がり、右舷側に転覆した。</p> <p>本船の近くにいた数隻の僚船は、本船が転覆したことに気付いて急いで救助に向かい、所属する漁業協同組合に本事故の発生を連絡し、同漁業協同組合が118番通報した。</p> <p>船長及び甲板員は、転覆した際に海上に投げ出され、船長が本船の船底に上がっていたところを僚船に救助されたが、甲板員が行方不明となり、捜索が行われた。</p> <p>本船は、船長が手配した船により造船所にえい航された。</p> <p>甲板員は、18日06時45分ごろ本事故発生場所の南方の海岸に漂着しているところを発見され、その後、溺水と検案された。</p> <p>(付図1 事故発生場所概略図 参照)</p>
その他の事項	<p>本事故発生場所付近は、当日、本船と同時期に岐宿港を出港した総トン数約1トンの僚船2～3隻が、刺し網の投網を行っていた。</p> <p>本船は、船外機を取り付けた和船型の漁船で、船底から船縁までの高さは約0.58mであった。</p> <p>船長及び甲板員は、本事故当時、救命胴衣を着用していなかった。</p> <p>甲板員は、発見された際、カップの上下を着用していた。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析	<p>不明 なし あり</p> <p>本船は、強風注意報及び波浪注意報が解除されて間もない頃で、岐宿港北西方沖付近には高い波が残っている可能性がある状況下、出漁して航行していたことから、左舷正横に波高約2mの波を受けて左舷側が持ち上がり、右舷側に転覆したものと考えられる。</p> <p>甲板員の死因は、溺水であった。</p> <p>甲板員は、落水して溺水したものと考えられるが、溺水に至った状況を明らかにすることはできなかった。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、強風注意報及び波浪注意報が解除されて間もない頃で、岐宿港北西方沖付近には高い波が残っている可能性がある状況下、出漁して航行していたため、左舷正横に波高約2mの波を受けて左舷側が持ち上がり、右舷側に転覆したものと考えられる。</p>

再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止及び被害の軽減に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 小型の漁船は、^{たん}堪航性、気象及び海象等を十分に考慮し、出港の可否を判断すること。・ 救命胴衣を常に着用すること。
--------------	--

付図1 事故発生場所概略図

